



金子勝 教授

専門:財政学、制度経済学

(インタビュアー:池田・迫本)

『財政学から様々な分野へ研究領域が広がる！！』

Q. 金子先生の専門とされている研究内容はなんですか？

出発点は財政学ですが、財政学は幅広く研究していこうと思うと、予算の費目に出てくるものに関連すれば、何でも研究できてしまうところがあって、研究対象になりえます。他の人は予算が赤字か黒字か、マクロ経済への影響はどうかという話で終わってしまうのですが、私の場合、問題の背景は何なのか、というところまで突き詰めたくなくなってしまいます。例えば社会保障や社会政策を研究する中で社会福祉学者がやるようなことまでやっていくタイプ。あとは、農業そのものにつっこみたくて農業経済学者がやっているようなことをやっていると、農村に直接行ったりしちゃいます。そのため、普通の人には何をやっているかわからないと思われることが多いです。エネルギーや原発、国債等の金融市場にも首をつっこんだり、研究内容は実に多岐にわたっているのですが、僕の頭の中では最終的には予算につながるので抵抗は無いです。普通の財政学者はそこまでやらないのですが、私にはそれが表層じゃないかと思えてきちゃうんですね。もしかするとヲタクなのかもしれませんね（笑）。よく言えば、飽くなき探究心がある、とも言えますが。

専門としている研究内容はこのように、背景としては財政学・地方経済学・制度経済学と言えるんですが、あんまり範疇に収まりにくいので説明しにくいんですよね（笑）。

『脳の筋力トレーニングをしよう！！』

Q. 金子先生の教育理念を教えてください

私が大学のときに習った経済学を、今その知識をそのまま伝えて何が説明できるか、経済学はすごく変わっていて、その時々に応じて変化するものです。そう考えるとそういう知識も大事だけど、教養として多くの人はそのまま経済学を勉強するわけでない。時代が変わっても絶えず新しく自分の頭で考えて問題を把握し、解決しようというような、自分の頭で動くような人を育てたいと思っています。論理的思考能力を使って状況判断をして、自分の判断で物事を組み立て、あらゆる知識を駆使しながら問題を解決していくような人材育成。それにふさわしい教育方法を模索していて、だんだん私なりにわかってきました。ゼミではまず本を批判して読む能力をつける訓練をします。まずは比較的好い本を自分たちで選んで、それでそれを批判的にやりましょう、といった形で進んでいきます。簡単に言うと本に書いてある内容は、いったん全部間違っていると思って本を読む。その人の意見をどう相対化するか、といった当たり前の思考能力を訓練する。その後、自分たちでテーマを決定して三田祭論文を書く。違う考え方の人が同じ文章を書くことの難しさを通して論理的に、違うもの・多様な個性を調整し、ひとつのものにすることを経験します。また、他の大学のゼミとディベートも行います。そうすると自分で考える能力が自然と身に付きますし、自分の頭で考えて自分の力で切り開いてゆくことができるようになっていきます。

ただ、教師が勉強を強制したことは無いです。慶應クラスになると、勉強の動機付けさえつけられれば、自分で勉強するようになりますしね。ゼミの雰囲気はお勉強サークルに近いです。頭の筋力トレーニングを皆でやろう！脳のでダンベルを持ち上げよう！という感じです。そうしたことで自立した人間ができればなあと思います。そうすれば知識の量もおのずと増えますしね。楽しそうにわいわい 好き者同士が集まるお勉強サークルですね（笑）

『頭が良くなっていくのが楽しかった！！』

Q. 金子先生の学生時代のお話を聞かせてください

学生時代は無鉄砲な人間でした。なんでも後先考えずつつこんじゃってました。あびるほど酒ものんだし（笑）。

ただ、3年生くらいになってから自分の脳みそが衰えていくのを感じ、勉強しようと思いました。勉強をし始めると頭がどんどんよくなっていった楽しかったです。ちょっと失敗したな、最初からやっとけばよかったなとも思いました。大学1、2年は高校時代にませていて本をよく読んでいたので、勉強をなめてしまい、しなかつたですからね。

3、4年から勉強して頭がよくなるのが楽しく思えてきたんですが、職業に選んだとたん楽しくなくなりました。映画監督が人の映画見ても楽しくないのと一緒にですね。いつも粗を探しちゃうんです。

学生時代は無理に勉強しろというよりは、だらだら枠の中で生きているのはもったいないということを心がけてほしい。中途半端になにかやるのではなく、何か一つすごいことに挑戦すべきだなあとも思います。

『意気込みを大事にします』

Q. 金子ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

頭が良くなりたい！というモチベーションが高い学生がいいですね。今知識が無くてもかまわないが、自分で物事を組み立てて、人の考えつかないようなこと、独創的なことを考えつくような人間になりたい！という欲望の強い人に来てほしい。そういう学生がくれば相当に楽しいはず！自分は馬鹿でもいいや、はだめ。慶應の学生は最速で80点を取る能力は持っている。ただし回り道をしてでも100点を取るんだというどん欲さが足りないと感じます。回り道の部分も最速でやってやる！というような意気込みのある人に来てほしいですね。

『お勉強サークルで楽しく一緒に勉強しましょう!』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

あんまり群れずに友達となあなあと楽しくやるというよりは、自分の知らないような、会ったことのないような人と出会い、新しい関係を築きたいという人に来てもらいたい。仲間とともに一生懸命お勉強サークルとしてわいわい勉強する感覚で来てほしいですね。

慶應にこんなやついたのか?というような出会いがあります。

同じような人といっても違いがわからないし、つまらない。多様性を重視するゼミだからこそ個人が成長できるとも感じます。是非楽しく一緒に勉強しましょう!!